



平成24年5月28日

卓話 『 Before I leave Japan, A few words
about Polish-Japanese relationship 』

駐日ポーランド共和国 特命全権大使

ヤドヴィガ・マリア・ロドヴィッチ・チェホフスカ 様

皆さんこんにちは。私は6月18日に日本を発ちます。その最後の時期に皆様に日本とポーランドについてお話しできることを宝と思っています。

日本語ではポーランドですけどポロスカというのがポーランド語での名前です。場所はちょうどヨーロッパの真ん中ですね。山脈とか大きな川などの自然な境界がほとんどなくて、それがポーランドの歴史に大きな影響を与えました。第二次世界大戦後、ポーランドはチェコスロバキアやハンガリーなどとともにソ連の影響下に入りましたが、1980年に始まった連帯という労働組合運動のお陰で平和的な革命ができました。その時から国民が強く望んでいたのは安全のためにNATOに加盟することで、それは1999年に、次はEUに加盟することで、それは2004年に実現しました。

ポーランド人で有名なのはショパンとかキュリー夫人ですね。地動説を唱えたコペルニクスは中世の天文学者です。

ポーランドの文化の特徴は多国民性です。ポーランドを作った4つの大きなグループはポーランド人とリトアニア人、ドイツ人とユダヤ人です。

1386年、ポーランドとリトアニアは同盟して国を作ったのですが、それはポーランド北部に土着して圧力を加えていた十字修道院の軍に対抗するためです。それ以前、バルト海の部族による侵略に悩んでいたため、それを抑えるよう十字軍に頼んだのですが、土着した途端、彼らはポーランドとリトアニアに圧力をかけるようになりました。それで彼らを破るためにポーランドとリトアニアが同盟したのです。1410年、これにチェコが加わっ

て十字軍を破り、その恐怖が終わりました。

ポーランド文化の黄金時代は14～17世紀で、ポーランドは長い海岸線や豊かな森林を利用して作られる塩や木材、麦や小麦を他のヨーロッ

パ諸国に輸出していました。それによって財政豊かになった各地域の領主はそれぞれ自分の街を作りました。例えばザモイスキという貴族が作った街は理想的な設計による都市で、お城の他にカトリック、ロシア正教、アルメニアン、ユダヤの4つの教会があります。マルチカル・トラリズムです。こういう多国文化性が昔からあったのは非常に大事だと思います。

ポーランドと日本の関係で、この話に触れることは義務だと思います。第2次世界大戦時、ポーランドでは反ユダヤ政策が厳しく、亡命希望のユダヤ人がたくさんいました。その時リトアニアの日本領事館にいた杉原領事が2千人に通過ビザを出したのですが、1つのビザで家族全員が出国できたので6千人が助かったのです。また去年の大震災ではヤイナ・ホイスカというポーランド人が宮城県の気仙沼で、ある幼稚園を立ち直らせました。彼らの活躍で去年の8月、宮城県と岩手県から30人の子供がポーランドで夏休みを過ごすことができました。この「絆の懸橋」というプロジェクトは将来とも続けたいと思っています。ご静聴ありがとうございました。

